

# 第27回参議院議員通常選挙

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

第27回参議院議員通常選挙 (だい27かいさんぎいんぎいんつうじょうせんきょ) は、2025年 (令和7年) 7月20日に執行された日本の国会 (参議院) 議員の選挙である。

## 概要

2025年 (令和7年) 6月22日に第217回通常国会が閉会したことを受けて、政府は6月24日の閣議で7月3日公示、20日投開票と決定した。投開票日の翌日 (7月21日) は国民の祝日 (海の日) であり、補欠選挙以外の国政選挙で投開票日が連休の中日に設定されるのは記録が残る1952年以降初である<sup>[1]</sup>。

12年に一度重なる東京都議会議員選挙との同年実施となり、当年の同選挙は6月22日に実施され、本参院選は約1ヶ月後に行われた。

東京都選挙区では、第26回参議院議員通常選挙で選出された蓮舫 (立憲民主党) が2024年東京都知事選挙に立候補したため退職 (自動失職) したが、公職選挙法第113条の規定により、改選数の4分の1を超える欠員が出た場合に行う補欠選挙の実施要件を満たさなかったため、1年余りの欠員状態を経て、本選挙の際に合併選挙が行われた。同選挙区は本選挙に限り改選数が7 (1枠追加) となり、最下位 (7位) 当選者が補欠選挙の当選者 (任期3年) として蓮舫の残り任期を引き継ぐ<sup>[2]</sup>。合併選挙は前回 (第26回) の神奈川県選挙区に続き5例目<sup>[3]</sup>。

また、神奈川県選挙区では、2023年8月30日に島村大 (当時自由民主党) が死去したが、上記の実施要件により補欠選挙が行われなかったため、本選挙まで約2年間欠員だった。

さらに、東京都選挙区選出の丸川珠代と音喜多駿、大阪府選挙区選出の東徹、和歌山県選挙区選出の世耕弘成が2024年10月15日に第50回衆議院議員総選挙に立候補、兵庫県選挙区選出の清水貴之が10月31日に2024年兵庫県知事選挙に立候補してそれぞれ退職 (自動失職) し、愛知県選挙区選出の大塚耕平は11月5日に2024年名古屋市長選挙に立候補するため辞職したが、いずれも任期満了日の前年9月16日以降に生じた欠員のため補選の対象とならず、本選挙まで欠員のままだった。

したがって、6選挙区の改選議員7人が欠員の状況で本選挙を迎え、すべての欠員が2年ぶりに解消された。

前年の東京都知事選で一部の選挙ポスターの内容が問題となったことを受け、ポスターに他人やほかの政党の名誉を傷つける内容を記載することを禁止する規定や、商品を宣伝するなど営利目的でポスターを使用した者を100万円以下の罰金とする罰則を盛り込んだ改正公職選挙法<sup>[4][5]</sup>が適用された初の国政選挙である。

前年の兵庫県知事選で問題となった、候補者が自身の当選を目指さず他候補を応援する「2馬力選挙」への対策として鳥取県・島根県選挙区の合同選管では、同選挙区の候補者5人に「自らの当選を目的として候補者となる」との宣誓書の提出を求めた。国政選挙で全国初<sup>[6]</sup>。

## 第27回参議院議員通常選挙

内閣	第2次石破内閣
任期満了日	2025年 (令和7年) 7月28日
公示日	2025年 (令和7年) 7月3日
投票日	2025年 (令和7年) 7月20日
選挙制度	選挙区制 74+1 (−) 非拘束名簿式比例代表制 50 (−)
改選数	124+1 (−)
議席内訳	



有権者	満18歳以上の日本国民
有権者数	1億359万1806人
投票率	58.51% (▲6.46%)

党派	各党別勢力		
	第1党	第2党	第3党
党色	<span style="color: #00a000;">■</span>	<span style="color: #0000ff;">■</span>	<span style="color: #ff0000;">■</span>
党名	自由民主党	立憲民主党	国民民主党
党首	石破茂	野田佳彦	玉木雄一郎
就任日	2024年10月1日	2024年9月23日	2020年9月11日
前回(3年前)	63	17	5
非改選議席	62	16	5
改選議席	52	22	4
獲得議席	39	22	17
増減	▼13	—	▲13
選挙前議席	114	38	9
選挙後議席	101	38	22
得票数(選)	1447万16票	911万9655票	718万653票
得票率(選)	24.47%	15.42%	12.14%
得票数(比)	1280万8306票	739万7456票	762万492票
得票率(比)	21.64%	12.50%	12.88%
党順	第4党	第5党	第6党

# 選挙データ

## 内閣

- 第2次石破内閣 (第103代)

## 公示日

- 2025年 (令和7年) 7月3日

## 投開票日

- 2025年 (令和7年) 7月20日

## 改選数

東京都選挙区は非改選議席の欠員補充1 (合併選挙分。任期3年) を加え、改選数は7となる。

- 124+1
  - 選挙区：74+1
  - 比例区：50

画像



党色	<span style="color: #c00000;">—</span>	<span style="color: #92d050;">—</span>	<span style="color: #e69d00;">—</span>
党名	公明党	日本維新の会	参政党
党首	齊藤鉄夫	吉村洋文	神谷宗幣
就任日	2024年11月9日	2024年12月1日	2023年8月30日
前回(3年前)	13	12	1
非改選議席	13	12	1
改選議席	14	6	1
獲得議席	8	7	14
増減	▼6	▲1	▲13
選挙前議席	27	18	2
選挙後議席	21	19	15
得票数(選)	317万5790票	345万1834票	926万4284票
得票率(選)	5.37%	5.84%	15.67%
得票数(比)	521万569票	437万5926票	742万5053票
得票率(比)	8.80%	7.39%	12.55%
党順	第7党	第8党	第9党

画像



党色	<span style="color: #c00000;">—</span>	<span style="color: #0000c0;">—</span>	<span style="color: #000000;">—</span>
党名	日本共産党	れいわ新選組	日本保守党
党首	田村智子	山本太郎	百田尚樹
就任日	2024年1月18日	2019年4月1日	2023年10月17日
前回(3年前)	4	3	新党
非改選議席	4	3	0
改選議席	7	2	0
獲得議席	3	3	2
増減	▼4	▲1	▲2
選挙前議席	11	5	0
選挙後議席	7	6	2
得票数(選)	283万1672票	188万1606票	65万2266票
得票率(選)	4.79%	3.18%	1.10%
得票数(比)	286万4738票	387万9914票	298万2093票
得票率(比)	4.84%	6.56%	5.04%
党順	第10党	第11党	第12党

画像



党色	<span style="color: #0000c0;">—</span>	<span style="color: #c00000;">—</span>	<span style="color: #e69d00;">—</span>
党名	社会民主党	チームみらい	NHK党
党首	福島瑞穂	安野貴博	立花孝志
就任日	2020年2月23日	2025年5月8日	2021年5月17日
前回(3年前)	1	新党	1 [注1]

第27回参议院議員通常選挙 - Wikipedia

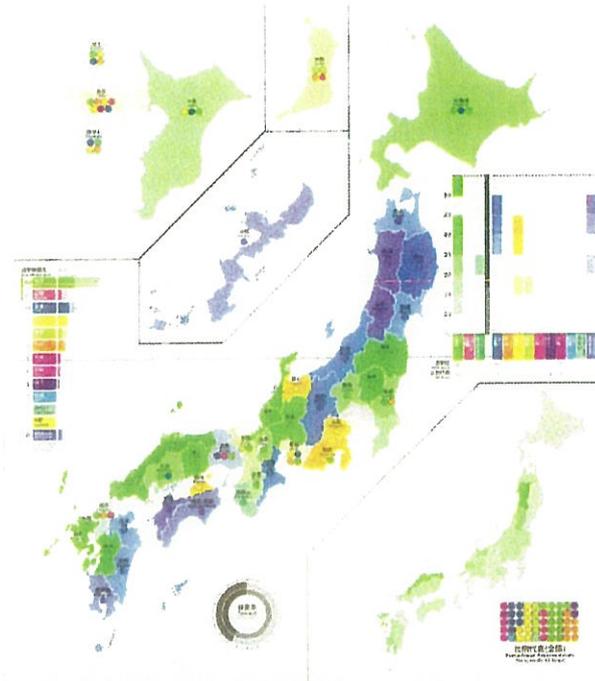
非改選議席	1	0	1
改選議席	1	0	1
獲得議席	1	1	0
増減	—	▲1	▼1
選挙前議席	2	0	2
選挙後議席	2	1	1
得票数(選)	30万2775票	95万6674票	74万740票
得票率(選)	0.51%	1.62%	1.25%
得票数(比)	121万7823票	151万7890票	68万2626票
得票率(比)	2.06%	2.56%	1.2%

[選挙啓発【紙務者】](#)

キャッチコピー さあ、投票へ。私たちの一票は明日への一歩だから。

イメージキャラクター [江口洋介](#)・[生見愛瑠](#)

[選挙状況](#)



各選挙区における党派別獲得議席及び得票率  
与党(自公連立政権)

自由民主党  公明党  与党系無所属

野党・その他

立憲民主党  国民民主党  日本維新の会

参政党  日本共産党  れいわ新選組

日本保守党  社会民主党  チームみらい  NHK党

野党系無所属

< 2022年

2028年 >

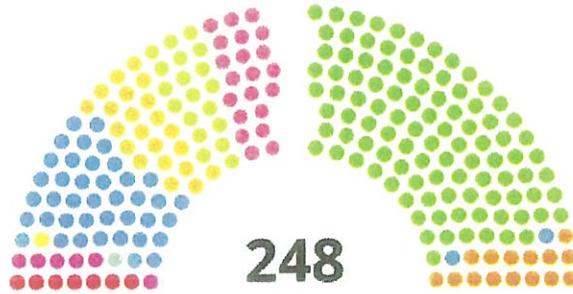
参议院議員通常選挙

各選挙区の改選数

### 党派別獲得議席

#### ● 第27回参议院議員通常選挙 🇯🇵

(2025年(令和7年)7月20日施行)



# 248

政党	獲得議席	増減	選挙区			比例区			公示前	非改選	議席計
			議席	得票数	得票率	議席	得票数	得票率			
<b>与党</b>	<b>47</b>	<b>▼ 19</b>	<b>31</b>	<b>17,645,807.833</b>	<b>29.83%</b>	<b>16</b>	<b>18,018,876.175</b>	<b>30.44%</b>	<b>66</b>	<b>75</b>	<b>122</b>
自由民主党	39	▼ 13	27	14,470,016.925	24.46%	12	12,808,306.775	21.64%	52	62	101
公明党	8	▼ 6	4	3,175,790.908	5.37%	4	5,210,569.400	8.80%	14	13	21
<b>野党・無所属他</b>	<b>78</b>	<b>▲ 27</b>	<b>44</b>	<b>41,507,837.905</b>	<b>70.17%</b>	<b>34</b>	<b>41,166,520.290</b>	<b>69.56%</b>	<b>51</b>	<b>48</b>	<b>126</b>
立憲民主党	22	—	15	9,119,655.732	15.42%	7	7,397,456.292	12.50%	22	16	38
国民民主党	17	▲ 13	10	7,180,653.202	12.14%	7	7,620,492.852	12.88%	4	5	22
参政党	14	▲ 13	7	9,264,284	15.66%	7	7,425,053.580	12.55%	1	1	15
日本維新の会	7	▲ 1	3	3,451,834	5.84%	4	4,375,926.682	7.39%	6	12	19
日本共産党	3	▼ 4	1	2,831,672	4.79%	2	2,864,738.498	4.84%	7	4	7
れいわ新選組	3	▲ 1	0	1,881,606	3.18%	3	3,879,914.253	6.56%	2	3	6
日本保守党	2	▲ 2	0	652,266	1.10%	2	2,982,093.455	5.04%	0	0	2
社会民主党	1	—	0	302,775	0.51%	1	1,217,823.169	2.06%	1	1	2
チームみらい	1	▲ 1	0	956,674.002	1.62%	1	1,517,890.306	2.56%	0	0	1
無所属	8	▲ 1	8	3,923,802.168	6.63%	—	—	—	7	5	13
NHK党	0	▼ 1	0	740,740.050	1.25%	0	682,626.375	1.15%	1	1	1
再生の道	0	—	0	128,746	0.22%	0	524,787.516	0.89%	0	0	0
日本誠真会	0	—	0	223,067	0.38%	0	333,263	0.56%	0	0	0
無所属連合	0	—	0	341,436.751	0.58%	0	289,222.312	0.49%	0	0	0

日本改革党	0	—	0	74,274	0.13%	0	55,232	0.09%	0	0	0	
減税日本	0	—	0	254,938	0.43%	—	—	—	0	0	0	
日本保守党 <sup>[注 4]</sup>	0	—	0	129,130	0.22%	—	—	—	0	0	0	
日本の家庭を守る会	0	—	0	23,686	0.04%	—	—	—	0	0	0	
みんなでつくる党	0	—	0	6,292	0.01%	—	—	—	0	0	0	
税金とうめい化の党 (自分ことしか考えていない国会議員退場の党)	0	—	0	5,387	0.01%	—	—	—	0	0	0	
新党くにもり	0	—	0	4,832	0.01%	—	—	—	0	0	0	
新党やまと	0	—	0	3,885	0.01%	—	—	—	0	0	0	
西郷党	0	—	0	1,805	0.00%	—	—	—	0	0	0	
核融合党	0	—	0	1,611	0.00%	—	—	—	0	0	0	
世界平和党	0	—	0	1,494	0.00%	—	—	—	0	0	0	
救世主作る党	0	—	0	1,292	0.00%	—	—	—	0	0	0	
欠員	0	▼	8	—	—	—	—	—	7	1	0	
<b>総計</b>	<b>125</b>	<b>▲</b>	<b>1</b>	<b>75</b>	<b>59,153,645.465</b>	<b>100.0%</b>	<b>50</b>	<b>59,185,396.465</b>	<b>100.0%</b>	<b>124</b>	<b>124</b>	<b>248</b>
有効票数 (有効率)					59,153,646	97.59%		59,185,735	97.65%			
無効票数 (無効率)					1,460,129	2.41%		1,422,497	2.35%			
投票総数					60,613,775	—		60,608,232	—			
不足数					1,101	—		2,435	—			
投票者数 (投票率)					60,614,876	58.51%		60,610,667	58.51%			
国内投票者数 (投票率)					60,587,865	58.54%		60,583,507	58.54%			
在外投票者数 (投票率)					27,011	26.90%		27,160	27.04%			
棄権者数 (棄権率)					42,976,930	41.49%		42,981,139	41.49%			
国内棄権者数 (棄権率)					42,903,510	41.46%		42,907,868	41.46%			
在外棄権者数 (棄権率)					73,420	73.10%		73,271	72.96%			
有権者数					103,591,806	100.0%		103,591,806	100.0%			

国内有権者数 (国内率)	103,491,375	99.90%	103,491,375	99.90%
在外有権者数 (在外率)	100,431	0.10%	100,431	0.10%

出典：参議院議員通常選挙結果調 (速報) ([https://www.soumu.go.jp/main\\_content/001021472.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/001021472.pdf))

選挙区投票率：58.51% (前回比：△ 6.46%)

【男性：59.27% (前回比：△ 7.00%) 女性：57.80% (前回比：△ 5.96%)】

比例区投票率：58.51% (前回比：△ 6.47%)

【男性：59.27% (前回比：△ 7.01%) 女性：57.80% (前回比：△ 5.96%)】

- 獲得議席 (125)・選挙区議席数 (75) に、東京都選挙区の非改選補欠選挙 (合併選挙) 当選者 (1) を含む。

党派別当選者内訳

党派	計	内訳					選挙区						比例区					
		現	元	新	男性	女性	計	現	元	新	男性	女性	計	現	元	新	男性	女性
自由民主党	39	26	1	12	32	7	27	20	0	7	23	4	12	6	1	5	9	3
立憲民主党	21+1	14+1	3	4	10	11+1	14+1	10+1	1	3	7	7+1	7	4	2	1	3	4
国民民主党	17	4	0	13	12	5	10	1	0	9	6	4	7	3	0	4	6	1
参政党	14	1	0	13	7	7	7	0	0	7	2	5	7	1	0	6	5	2
公明党	8	4	0	4	8	0	4	3	0	1	4	0	4	1	0	3	4	0
日本維新の会	7	2	0	5	4	3	3	0	0	3	2	1	4	2	0	2	2	2
日本共産党	3	2	0	1	1	2	1	1	0	0	0	1	2	1	0	1	1	1
れいわ新選組	3	1	0	2	1	2	0	0	0	0	0	0	3	1	0	2	1	2
日本保守党	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2	2	0
社会民主党	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0
チームみらい	1	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0
無所属	8	4	0	4	4	4	8	4	0	4	4	4	-	-	-	-	-	-
総計	124+1	58+1	4	62	83	41+1	74+1	39+1	1	34	48	26+1	50	19	3	28	35	15

出典：参議院議員通常選挙結果調 (速報) ([https://www.soumu.go.jp/main\\_content/001021472.pdf](https://www.soumu.go.jp/main_content/001021472.pdf))

○+1は東京都選挙区の非改選分の補欠 (合併選挙) 当選者。  
すべての都道府県で投票率は前回の参院選を上回った<sup>[103]</sup><sup>[104]</sup>。

期日前投票者数 (選挙区) は2618万2089人で、参院選で最多だった前回2022年の約1961万3000人から約656万8000人増え、最多を更新<sup>[105]</sup>。2004年に期日前投票制度が導入されて以降、衆院選を含めた国政選挙で過去最多<sup>[106]</sup>。投票日が3連休の中日と重なったことから総務省や選挙管理委員会が利用を強く呼びかけたことが一因とみられる<sup>[107]</sup>。

女性当選者は過去最多の42人で、初めて30%台となった<sup>[108]</sup>。また、平成生まれの参議院議員<sup>[注7]</sup>が初めて誕生した<sup>[109]</sup>。

1人区

32ある1人区で自民党は14勝18敗で非自民候補に負け越した。前回2022年の28勝4敗から半減し、前々回2016年に1人区が32になって以来最低。非自民候補が獲得した18議席のうち、立憲民主党が前回より6議席多い8議席、国民民主党が前回より2議席多い3議席、野党系の無所属候補が6議席、与党系の無所属候補が1議席を獲得した<sup>[110]</sup>。

自民は石破茂総裁の地元の鳥取・島根や福井、山口などで勝利したものの、甲信越と四国で全敗、東北で1勝5敗に終わった<sup>[111]</sup>。立憲は青森、岩手、宮城、新潟、長野、三重、大分、宮崎で、国民は玉木雄一郎代表の地元の香川や富山、山梨でそれぞれ議席を得た。秋田、山形、徳島・高知、愛媛、鹿児島、沖縄では野党統一候補が勝利した<sup>[112]</sup>。

全選挙区に候補者を立てた参政党は、1人区で当選者はなかったものの、群馬では自民の現職を1万8千票差まで追い込む善戦を見せる<sup>[113]</sup>など、保守層や無党派層の一定の受け皿となり、立憲や国民など非自民に有利に働いたことが自民負け越しの遠因となったとの分析もある<sup>[114]</sup>。朝日新聞の出口調査によると、1人区で無党派層が自民に投票した割合は前回2022年に比べ10%以上減少、参政に投票した割合は倍以上に増加した<sup>[115]</sup>。